

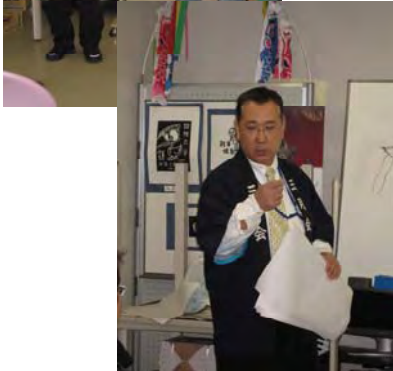


UMEX 夢っくす ニュース

# かわらばん

## 記念号 3月号

祭りを説明して頂いた方々  
左上：井口会長と通訳の羽柴真楠さん  
右下：羽賀正道さん



### 裸押し合い祭り講座！ 三味線と唄と踊りと・・・

坂大英子

3月3日(土)の裸押し合い祭りが1週間後という2月23日(金)の夜サロンで、はっぴ姿の羽賀さんとささらすりのささらを持った井口会長の講座が行われました。お寺の堂内の写真を沢山用意されての解説は、初めてのお祭見物をする学生さんたちにも興味を持たせていただけないでしょうか？ささらだけは150年前の物だとか、今は別のささらだけが使われているそうですが、京都から取り寄せるのだそうで、井口家の本家だけが、お祭の締めくくりにささらをすり合わせて五穀豊穡を祈りながら奉納するとか、学生からの質問でどうして裸で押し合いをするのか？とか楽しいお話でした。今年は雪が少なくしてお祭のために境内に雪が運び込まれたそうですが、古くから続く伝統の行事に大勢の人達の苦勞を思いながら聞き入りました。

最後に用意された名物の“しんこもち”を食べながら、賑やかな三味線の演奏と3人のおどりこの浦佐さんよ節を拝見し、一足早いお祭気分を味わいました。

幸い今年の祭当日は晴れだったので大勢の人たちでにぎわいました。学生さんたちを多く見かけたのも嬉しい事でした。



踊りと三味線を披露して頂いた皆さん  
学生さんと一緒に！

### 母国紹介「中国」に参加して

2月16日(金)夢っくすサロンにて開催された母国紹介に参加しました。今回は中国の紹介で国際大学の学生であるシュー、アイドンさん(写真右)によって行われました。最初に中国の国旗の説明から始まり、国土の紹介ではシューさんの出身地である遼寧省の場所が地図を使って紹介されました。漢字の紹介では日本の漢字と意味がまったく違うものがあり、間違えたら大変なことになると思いました。また、宗教、服装、食べ物、歌舞伎(京劇)、野生動物が写真を使って紹介されました。祝日の紹介では、今年は日本では亥年ですが中国や韓国などでは豚年だとの説明され、日本はなぜ亥年になったのかな？って思っていました。シューさんは、スポーツが大好きとのことで、中国武術や中国で人気のスポーツが紹介されました。中国武術の外家と内家の違いが説明され、シューさんたち中国からの留学生が国際大学のオー



プンデーで披露した少林功夫(外家)と太極拳(内家)の様子が写真で紹介されました。太極拳に代表される内家は動きはゆっくりだが外家に負けないくらい威力があるそうです。

参加された皆さんは、シューさんの話に聞き入っていてとても楽しい時間を過ごせたようでした。次回の母国紹介も楽しみにしています。(森山俊行)

### ★今後の予定★

- 母国紹介(南アフリカ)  
南アフリカ出身のヘレナさんからお国事情を紹介して頂きます。皆さんお誘い合わせのうえ、是非ご参加下さい。

日付：4月20日(金)  
時間：19:30～20:30  
場所：夢っくすサロン

- 春のバスツアー(白川郷)  
毎年恒例となりましたバスツアーを企画しました。今年は世界遺産で合掌造りで有名な白川郷を訪れます。春の麗らかな陽気の中を一緒に散策しませんか？

日付：4月22日(日)  
出発：午前7時  
集合：国際大学正面玄関前  
申込：久保田(イベント担当)  
080-6564-6833

### 裸押し合い祭り見物



今成透さん(左)とアルナさん家族

一家はアルナさん(学生)、夫のディープさん、娘2人(小学一年、幼児2才)のネパールからの家族です。裸祭りの当日7時頃会場に伺いました。会場近くの道路両側には色々沢山の露店(100軒?)が並び見物客と買い物客でごった返していました。会場入り口付近の路上で祭に参加する裸のIJJの学生とその関係者の集まりを見つけ激励の声をかけました。会場に到着した時ちょうど祭りが始まろうとしていました。冷水浴と本堂の押し合いを出来るだけ近くで見ようとしましたが、余りにも多くの見物客と、子供連れのことでもあって残念ながら遠くからの見物となりました。しかし家族の皆さんはこの大掛かりなローカル色豊かなお祭りに驚き、興味津々としなまれ、感銘され、この伝統的な日本の文化の一面を大満足で十分に堪能された様子を、私はほっとしてお祭りを楽しむことができました。アルナさん家族には長岡花火見物の案内を約束しております。これからも色々な日本文化に接することが出来る沢山のイベントを紹介し、私も出来る限り案内してあげたいと思います。(今成透)

### 日本語チューターに参加して



外谷直美さん

南魚沼に嫁いで早4年、友人の紹介で夢っくすに参加し、間もなくチューターをしています。今まで4人の学生さんと交流してきました。うち二人は交換留学生の為半年ずつ、一人は入学から卒業迄、そして現在は1年生のSaodatです。初めてのチューターはフィンランドの人、何をしたら良いのか?私に出来るのか?こんな感じのスタートでした。2人目は台湾人、彼は勉強熱心で私に日本語の再発見とさせてくれました。彼とは私の家族、友人とも仲良くしています。実は2回台湾に行き、彼におんぶに抱っこで台北を満喫して来ました。三人目は昨年卒業したカンボジア人、丁度その時期は私自身初めての妊娠出産で何かと大変でしたが、やさしい心配りをしてくれました。出産後病院にお友達数人とお見舞いにも来てくれました。先日は娘にお誕生日プレゼントが届きました。そして現在は初めての女性、カザフスタン人のSaodatと3月16日で1歳になった娘と3人で賑やかにやっています。彼女は娘の事をとても可愛がってくれ、娘も彼女によくついていきます。娘中心で彼女にはいつも無理を聞いてもらい申し訳なく思っています。振り返ると私は彼らにいつも支えてもらっていた事を感じました。チューターを通してこんなに素敵な出会いが出来ていた事に感謝しています。そしてこれからも沢山の出会いに期待をします。

## Welcome to Hinamatsuri Party!

### 遠山綾子

2月25日(日)、今年も我が家でひな祭りパーティーを開きました。今回は、夢っくすの運営委員の方々のお力を借り、インフォーマルでしたが国際大学のいくつかのご家族に声を掛けていただき、インドネシア、ベトナム、ネパールから4家族お見えになりました。また、日頃、夢っくすで親しくして頂いている会員の方々も交えて、楽しいひと時を過ごしました。

我が家にある雛壇を皆で飾ったり、蕎麦を打ったり、けんちん汁やおにぎりを作ったり・・・皆さんからも自慢の一品を持ち寄って頂いて、おなかいっぱいのパーティーになりました。昨年、ひな祭りの時期に国際大学や夢っくすの方々とのパーティーを始めたのですが、今年は小さなお子さんも多く、我が家にとっては久しぶりの『チビッツパワー』に笑いが絶えませんでした。普段、なかなか外に出られない祖母にとっても、とても楽しい時間になったようです。

私は普段、夢っくすの活動になかなか参加できないのですが、自宅にあるモノを使って国際大学の学生さんたちに『日本』に触れていただく機会を作ることができれば、こんなに嬉しいことはありません。自分ひとりでは、なにかするにもなかなか大変ですが、運営委員の方にご相談した事がきっかけで、広く宣伝して頂いたり、国際大学から我が家までの送迎を分担して頂いたり・・・とても心強く、気軽にこういった楽しい時間を作ることができました。パーティーに来て頂いた皆様、ありがとうございました。また、来年も『ひな祭りパーティー』しましょうね♪



遠山綾子さん(右)

## 昼サロンギャザリング

### 斎藤良弘



斎藤良弘さん(左から2番目)

2月23日(金)の昼サロンギャザリングに参加させて頂きました。テーブルの上には乗せきれないくらいのおっくさんの料理があり、皆さん会話もずいぶん弾んでいたようですけれど、やっぱり美味しい料理に囲まれていたら自然と会話も盛り上がりちゃいますよね。カナダ出身のブライアンさんは日本に来てから柔道を習い始めたとか。それを聞いて柔道初段の私がお節介にもしゃしゃり出たんですが、ブライアンさんはあの井上康生選手の得意技でもある内股を既にマスターしたとか。どうも私よりも柔道のセンスが良さそうなので私の番はなさそうです。ギャザリングに来ていた会員さんの中に格闘技をやりたいという人がいて、今度ブライアンさんと一緒に柔道の練習をすることになりました。その会員さんはつい最近までオーストラリアで一年間のワーキングホリデーを行ってたという話を聞いたり、韓国出身の学生さんからは今まで自分の国を入れて4ヶ国だったとか、5ヶ国で生活していた話も聞けたり、その他インドネシア、トルコ、ラオス、ネパール、イギリス、カンボジアの人達とも交流できて楽しいランチの時間を過ごすことができました。チューターをしていない私は学生さんたちと接する機会があまりないのでギャザリングは絶好のチャンスです。休日出勤の代休はなるべくギャザリングのある日に充てようと思ってますんで、その時はまた皆さんのお仲間に入れて下さいね。

「こんにちは、お願ひですか」いつもの挨拶です。「日本で就職したい」「日本人と話したい」とわずかな時間に熱心にやってきます。先日は塩沢の雛祭りを見学に行き、いろいろな人達と出会って交流する事が出来ました。私達も異文化に接したり自国の文化を見直したり出来るので日本語チューターを楽しみにしています。今、世界中でご活躍の皆様お元気ですか。



篠田ヒサさん

### 50号を記念して・・・

### かわらばん歴代編集者からのメッセージ



**畔上哲史さん**  
初代編集長

夢っくすニュースかわらばんの50号記念発行おめでとうございます。創刊号からしばらくの間、編集キャップとして紙面編集をしていた畔上です。かわらばんは夢っくすの「会員だより」として、主にイベント案内と活動報告を中心に編集していました。当初からパソコンの編集ソフトを使い、原稿依頼と回収は電子メール、印刷はカラープリンタ&カラーコピーと、先進的な編集をしていたと思います。（お金もかかっていましたが。）

毎月発行は広報部編集員にとってはかなりの負担で、毎月誰が「編集長」をするかを押し付けあっていた記憶があります。（T編集部員にはご迷惑をおかけしました。）何とか穴をあけることなく発行し続け、「50号」続いたとは、正直驚きです。夢っくすは日常の活動もイベントも活発に行われているので、かわらばんのネタはたくさんあります。学生や会員からの原稿、イベントの写真に加えて、広報部員が活動を通じて感じたことを、もっと文章として紙面に加えれば、もっとかわらばんは良くなると思います。活動やイベントに参加できなかった会員でも、かわらばんを見ることで「自分も夢っくすに参加している」と思えるような、紙面となることを期待しています。



**渡邊正志さん**  
現編集者

夢っくすに入会してしばらくして、かわらばん作成の仕事に自ら願って参加させていただくようになりました。初めて編集を任せられた時は、慣れない編集作業とパソコンソフトの操作に四苦八苦しましたが、慣れてくるに従ってレイアウトなど自分なりに工夫することを楽しめるようになりました。かわらばんの編集に携わらせて頂いたおかげで、自分が参加していないイベントについても知ることができ、会員さんと学生さんの交流や触れ合いを身近に感じることができました。編集の仕事は時間もかかりちょっとたいへんですが、それだけに刷り上がったかわらばんを手にした時はとてもやりがいを感じます。もし興味のある方がいらっしゃったら、広報部の活動に参加してみませんか？

かわらばんもとうとう50号。夢っくすの活動を伝え続けて五年。編集作業を通してたくさんの活動を見てきた。初めの頃は仕事でもないこの不慣れた作業に、なぜ毎月徹夜しなければならないんだ？「国際交流」に惹かれて入会したんじゃないかって？と不満を持っていたが、武田さんに励まされ今日まで続けてきた「かわらばん」発行。振り返って考えてみると、よくみんな繋いできたなあとしみじみ。届いたレポートを校正していると、楽しそうな時間が想像でき、参加できなかったイベントも参加している気分になれたことを思い出す。

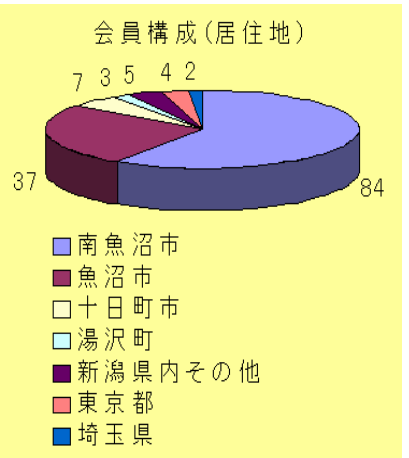
**高津戸真弓さん**  
二代目編集長



初代デザインも現在のデザインも初代編集長作である。6、7号から現在のデザインに変わった。かわらばん作成に参加した当時、私は原稿集めと印刷部員でしかなく、完全に畔上さんの部下だった。集めたデータを畔上さんに手渡して持ち込み、畔上さんが仕上げたものを受け取り、大学で印刷して発送。この効率の悪い二人三脚っぷりに、とうとう畔上さんはスパルタ講師に変身！湯之谷の畔上塾へ通い、編集のノウハウを教わった日々が懐かしい。「かわらばん」の苦勞を分かち合った人とのお付き合いは続いている。今もなお畔上夫妻にはたくさんのアドバイスをもらっている。

ようやく立ち立した私だが、ドタバタの連携プレーはなくなり、発行前日は必ず徹夜だった。畔上さんが新潟に行ってしまったからは、私が二代目編集長となった。しかし、27号辺りから森山さんに任せて逃げ回っていた。渡邊さんにギリギリになってお願いしたこともあった。時には会長にまで手伝わせたり、とんでもない編集長でみなさんご迷惑をおかけしました。その償いに、49号を担当して久しぶりに達成感でぐったりしました。編集発行作業は地味で、その苦勞はやった者しかわからない。みんなそれぞれに忙しい時間を割いてこの作業に徹している。これからも一人一人の使命感と頑張りガリリされていくことを願っています。

**会員数**  
(142名：2007年3月現在)  
男性：47名、女性：95名



**森山俊行さん**  
現編集者

かわらばんも気が付いたら50号となり、よく続いたものだと人事のように感心しています。初代編集長の畔上さんと副編集長の高津戸さんが四苦八苦している姿を一步退いて見ていた私も、畔上さんの転勤があってから高津戸さんから徐々に編集を振られることが増えて、渡邊さんとも編集を分担して来たが、気が付いたら歴代で最多編集者となっていた。編集作業は思いのほか大変で寝不足の日々が続くため、重ねる度にもっと要領よくやろうと思うが、なかなか思うように行かない。会員の皆さんや学生さんの想いのこもった文章や楽しそうに交流している写真を見ると、なかなかレイアウトが決まらない。歴代編集者が感じているように編集は確かにパソコンの前で一人もくもくとキーを敲きマウスを動かす時間のかかる地味な作業ではあるが、皆が楽しみにしているんだ！と自分に言い聞かせながら行って来ました。かわらばんは夢っくすの足跡そのものなんだということを感じて頂けると大変嬉しく思います。

**編集に関わった方々**  
荒井紀洋さん



武田里子さん



井口会長にも編集して頂きました。

## 50号を記念して・・・運営委員からのメッセージ

### ☆研修部会 井口義夫さん

#### ～モンゴルからの素敵な言葉～

同じ現象でも、世界各国でどのように言われているのかを「蒙古斑」について聞き取りをおこなった時のことですが、さすがにモンゴルの人たちには、素晴らしい言い伝えが残っていると感心しました。

モンゴルから来た学生のツオルモンさんから聞いた話では、「私たちの祖先は、空からやってきました。その名残がモンゴリアンスポットとして、お尻にあるのです」と教えてくれました。

日本では、「お母さんのお腹から、早く出て行くように神様がつねった」ような話でした。

それはさておき白人系では、色素がほとんど無いために生じなかったり、黒人系では皮膚の色に隠されて見えなかったりしますので、やはり黄色人種に特徴的な斑点なようでした。



蒙古斑について話をしたツオルモンさん（中央）

### ☆イベント部会 久保田豊昌さん



イベントを担当して3年ほどになりました。その間、春の山菜パーティをはじめとして、バス旅行、歓迎会など様々なイベントを行ってきました。その度にいろいろな人達と係わりを持つことができ、楽しい時間を過ごすことができました。

開催するイベントに多くの方から参加して楽しんで頂きたいですが、企画して実行する楽しさも皆さんから味わって頂きたいと思います。

### ☆サロン部会 高橋和子さん



サロン部会では、皆様もご存じの通り、国際大学内学生寮SD3階「夢っくすサロン」での催しを提案、サポートしています。夢っくすサロンは火曜日と金曜日昼1時～3時、夜7時～8時45分などでも気軽に遊びに来て頂けるようになっています。

今では恒例となりましたが、毎週金曜日サロンでは会員さんによる手芸教室や毎月第4金曜日の昼サロンギャザリング（持ち寄りパーティー）、夜は母国紹介や浦佐の裸押し合い祭りの紹介等を行っています。また学生のお子さんを交えてのキッズサロン、ベビーサロン等もあります。でもなんといってもサロンの楽しみは人との出会いです。

サロンに訪れた学生さんやその家族の方達とお話したり、意気投合して小旅行や温泉めぐり、ホームピジットやホームステイ等楽しみは沢山あり、学生さんのみならず会員の方向士の交流にも一役かかっています。初めてサロンにいらっしゃる方は知らない所一人でいらっしゃるのちょっと気おくれすると思います。昼間いらっしゃる方は、まずは金曜日サロンギャザリングにいらしてみても如何でしょうか？知らない方も一緒に食事をするだけで、帰りにには旧知の仲のようになってしまします。皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

### ☆多言語部会（日本語）～ボーダレスな日本語チューターに！～ 大出恭子さん

私は関矢秋子さん、渡邊正志さんと共に、日本語を話したい留学生とボランティアをしたい会員さんとのマッチングを担当しています。定期的に会って日本語の宿題を手伝ったり、時には一緒にお出かけをして、楽しい時間を過ごしているペアがたくさんいる一方で、パートナーがなかなか決まらない、決まってもなかなか会えない、という方もいます。

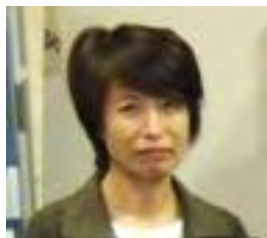
私が国際大学の留学生に日本語を教えるボランティアを始めたのは、夢っくすができるはるか昔…今から10年以上も前のことです。英語も話せない、日本語のことも、日本の文化や社会のことも何も説明できなかった私ですが、学生の質問に応えようと、少しずつ勉強しました。

当時、中国語と日本語の会話パートナーをしていたチュン・リュウさんとは、卒業以来、一度も会っていませんが、今でも年に数回メールのやりとりをしています。お寿司好きの私たちは、何かと理由をつけては、回転寿司へ。彼女が卒業する時には、初めてお寿司屋さんのカウンターで食べました。私に英語の楽しさを教えてくれたカナダからの交換留学生、ゴードン・クーパーさんは、ドラマのジョークをひとつひとつ解説してくれました。それから、リフレーズ。私が言おうとしていることを毎回、正しい英語で言いかえてくれました。その頃アルクの通信教育で日本語教授法を学びました。今では2児の父となった彼と奥様のシェアさんとは、カナダで、シンガポールで、東京でと再会しています。

私が会話パートナーとのコミュニケーションでひとつだけ心がけていることは、相手から返事が来ないことがあっても、自分から何度か連絡を試みることです。相手の様子を尋ねる。自分の近況を報告する。引越をしたら、連絡先を知らせる。用事がなくても、連絡する。そんなことを、1ヶ月、1年、10年と続けていたら、いつの間にか、かけがえのない友だちになっていました。

日本語チューターという「肩書き」はついていますが、人と人の出会い、人とのつながりに、境界線はないのかもしれない。

### ☆多言語部会（外国語） 柳瀬陽子さん



多言語部会（外国語）では、主に「英会話教室」の運営を行なって来ました。

国際大学の学生との「英語で交流」を目指して、『夢っくす』の設立時から開講してきた会員向けの「英会話教室」は入会のきっかけづくりに大いに貢献してきたのではないのでしょうか。講師は国際大学学生や時にはその奥様達にお願いしてきました。学生の多くは日本人と同様に英語を外国語として学んでいる国の人達です。共通語としての英語でお互いの国の文化を紹介しあい交流を深めてもらいたいとおもいます。ただ、私達が英会話を習うより、学生が日本語を覚えていくスピードのほうがはるかに速く、私の感想では「いつのまにか、日本語での会話が多くなってしまった。」というところですよ。

最近、中国語会話教室も開催し定着しつつあります。字体と意味の違う漢字に戸惑いながらも、北京オリンピックを控え、注目の国“中国”をもっと身近に感じてもらえたらと思います。次年度からは、鈴木なつこさんが担当を引き受けてくださいました。『夢っくす』各部会の運営については運営委員のボランティアで行っています。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

～ “<sup>わ たつ な</sup>和もて貴しと為す” ～ ☆夢っくす会長 井口 義夫さん

夢っくすかわらばん、50号発行おめでとうございます。平成14年5月26日に設立総会を開催し、正式に発足してから4年と10ヶ月の現在、わずか17名の設立準備会の会員が140余名となりました。



当初は知名度も無かったので、広報、宣伝、啓蒙のために、北は旧守門村の野村村長に協力を依頼し、南は旧塩沢町の担当者に説明を行い【夢っくすニュース】（当時の名前）を置かしてもらった事が、懐かしく思い出されます。

その後、国際大学からは部屋の使用の認可を受けたり、また多くの協力者に恵まれながら、学生と地域住民の架け橋の役割を果たしてきた結果、今日がある事を皆さんと共に喜びたいと思います。

さて、タイトルに掲げた言葉は、私の大好きな一文であります。元々は、孔子の論語からありますが、聖徳太子の「17条憲法」や田中角栄さんが書にしたためた事により、日本人には広く知れ渡っているのです。今までの「夢っくす」の活動が前文に主体であったなら、これからは、後半部分を念頭に置きながら、皆さんの一層のご活躍を期待して、お祝いの言葉と致します。

<sup>ゆうし いわ れい よう わ たつ な</sup>  
有子曰く、礼の用は、和をもて貴しと為す。

<sup>せんおう みち これ び な</sup>  
先王の道は斯を美と為す。

<sup>しょうだいにれ よ おこ ところあ</sup>  
小大之に由れば、行なわれざる所有り。

<sup>わ し わ れい もって これ せつ またおこ か</sup>  
和を知りて和すれども、礼を以て之を節せざれば、亦行う可べからず。

〈現代語訳〉

有先生の教え。礼式・作法の実行においては、なごやか（和）であることが大切である。古代のすぐれた人たちのありかたにおいても、なごやかであること（斯）を善としている。かと言って、だれもがどの場合でも〈なごやか〉〜つきつめれば「なあ、なあ」主義の押れあい〜ばかりだと、礼式・作法がみだれてしまう。なごやかさを活かすとしても、礼式・作法の折目正しさを忘れず、節よく両者がつりあわなければ、礼式・作法は崩れてしまう。〈論語 加藤伸行より〉

会員からのメッセージ

～夢っくすの中の私～ 田中 信さん



人生の半分を住した他県からターンして来た私のライフスタイルは一からのスタートでした。友達作り趣味のスポーツから手芸まで、以前の生活スタイルを維持するにはどうしたら良いか悩んでいる時に出逢ったのが夢っくすでした。今正に立ち上がるようとしていた、まだ名も無い頃からのお付き合いが始まりました。役員の方々、会員の皆さんの協力の下、今日までの夢っくすになるまでの過程を見て来た私ですが当初は成すべき事も解らず只皆さんの後に影のように付きまとい時間の許す限り色々な行事に参加して見ました。でも戸惑うばかりで掴む物が見つからない有様でした。そして年月と成り行きに流されながらも少しずつ手応えを感じられるようになりましたが、まだまだ手探り中です。サロンで接する何ヶ国もの人達との交流のお陰で、自分の知らない世界がどんどん広がりボランティアをしているつもりがいつの間にかボランティアされていたりして、とても居心地の良い所となりました。私がずっと趣味として育てて来た着付けや手芸で微力ながらも国際交流が出来て皆さんに喜んでもら

応援メッセージ①

国際大学 教授 渡辺慎一



今月号で「かわらばん」が50号になるとのこと。おめでとうございます。会員をつなぐ仕組みとして「かわらばん」が果たしてきた役割はどんなに高く評価しても評価しきれないと思います。「かわらばん」のために記事を書いたり、編集に携

わったりした会員のみなさま、本当にご苦労様でした。もちろん「かわらばん」作りができたのは、夢っくすの日常的な活動があり、「かわらばん」に盛り込むことのできる豊富な内容があるからこそです。夢っくすの会員さんとの交流のお陰で、留学生たちはいつまでも心に残る貴重な体験をし、日本の社会や文化、日本人について多くのことを学んで国に帰っていきました。僕の学生のひとは、不登校児童の問題（より正確には、彼らの問題として現れている日本社会の問題）についてとても優れた修士論文をまとめました。夢っくすの会員さんのサポートがなければ不可能な研究でした。もともと日本が好きだったので、彼女は日本を本当に好きになりました。国際大学で働いている教員の1人として、夢っくすを支えてきた下さったすべての会員の方々に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。夢っくすはその船出の時からいくつもの障害に直面し、それらの障害を乗り越えるなかで、重要な知恵や組織の力を育ててきました。これからもいろいろな困難に遭われることと思います。しかし、夢っくすにはそれらの困難に立ち向かい乗り越えていくのに必要な力と勇気があると信じます。僕にできることはあまりありませんが、夢っくすと一緒に歩いていきたいと思っています。

える幸せを日々噛み締めております。国際交流と云う大きな看板の下で自分の好きな事だけしていいものだろうかと思いつつ皆様の好意に甘えております。金曜日1～3時頃での昼サロンは手芸やその他諸々を楽しみながらお喋りも弾む時間帯となっております。興味のある方は一度と言わず何度でもお出掛けください。お待ち申し上げます。

応援メッセージ②

国際大学 教授 ジェイ・ラジャセクラ

Extending IUJ Community with UMEX

As we know UMEX is a community of individuals who are interested in helping each other through exchange of friendship and mutual help.

One activity I where I was most impressed of UMEX support was the organization of the Sri Lanka Dance Festival in Fall of 2006. As we know Sri Lanka was one of the worst effected countries by the 2004 Sumatra Tsunami, killing more than 35000 people. Following the disaster, UMEX helped organize a concert featuring the big Hawaiian Sumo wrestler Konishiki, at the Muikamachi Cultural Hall. The money collected at this hugely successful event was distributed by UMEX volunteers, personally, to the effected countries, including Sri Lanka.



To thank the UMEX community which helped with donations, Sri Lanka government arranged a tour of a world renowned dance group from Sri Lanka to come perform at IUJ. This was the first time in history that such an event by a Sri Lankan group had performed in Niigata. Needless to say, many people who attended were marveled by the rich traditional dance and music in Sri Lanka which has a history or more than 2500 years. I would like to thank UMEX for enabling such cultural exchange between Japan and foreign countries.

Photo: Sri Dance Group at MLIC Hall

Contributed by: Prof. Jay Rajasekera, IUJ

## 修了生・その家族からのメッセージ

### ☆ジャホンギルくん（修了生のお子さん）とジヨダさん（修了生の奥さん）

私の名前はジャホンギルです。私は日本にいた時に浦佐小学校でべんきょうしていました。私はお父さんが勉強している大学にあるUMEXと言うクラブにも行っていました。私たちはそのクラブでほかの国の子供たちや、日本人の子供たちと日本語で話したり、いっしょに色々な遊びをしたり、して楽しかったです。でもその時は日本語があまりわからなかったけど、UMEXのおかげで日本語を覚えるのが早くなったし、日本人の友達もできました。その友達たちと大学にある体育館にいてそこでサッカーとかして遊んでいました。だからUMEXがあってよかったと思います。わたしは今も日本語を勉強しています。大きくなったらまた日本に行きたいです。もし日本に行ったら必ずUMEXにも行ってみたいです。色々してくれてありがとうUMEX。

Dear Takahashi san, first of all we would like to thank you for giving us such an opportunity to share with you and UMEX members about our experience at IUJ. As you know, we came to Japan with our two children and did not know what to expect. We knew very little about Japanese people, culture and lifestyle. However, after finding out about different events, which were organized for students and their family members by UMEX we felt special attention and realized that we will learn a lot about Japanese culture here. Especially for our family UMEX did even more. They found Sugiyama sensei, a volunteer from Koide town, who spent a lot of time with us to teach Japanese and answered many of our "strange" questions. We are very grateful to her.

That two years we spent in Japan at IUJ were fascinating times for me. I think that's because we were surrounded with many openhearted and caring people like, "Otouto san" (well known IUJ bus driver), Tamaru sensei, Kimura sensei, Yamashita san, Takeda san, Okamura sensei and Tsuna sensei from Urasa elementary school, Ohie san, Godaira san, Miyasato san, Sato san, Nobuko san, Banzai san, Jane san (Rainbow language principal) and many others. Many of these people were our neighbors and just some other people we met in different occasions in Urasa. They all helped us when I got sick, and when my son broke his hand. We never felt lonely. They all left only good memories about our stay in Japan. May be that's why our elder son wants to go study to IUJ in future. We still keep in touch with many of these people. Some of them visited us here in Uzbekistan. We hope that our friendship is forever! (Ziyoda)



ウズベキスタンの  
修了生の家族

右から、モハメッドさん（お父さん、留学生）、イクバルくん（弟）、ジャホンギルくん（兄）、ジヨダさん（お母さん）

今回、ジャホンギルくんが日本語で、ジヨダさんが英語でメッセージを送ってくれました。

### ☆ウーソックさん（修了生）



ウーソックさん

「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国であった。」

2002年9月11日、私が成田行の飛行機に乗るとき、新潟についての知識はこれが全部だった。実は、2週間前に国際大学から連絡があり、日本留学が決まった。近くて遠い国と言われる日本。日本語も全くできない私にとって、人生最大の決断の中で一つであった。

こんなに田舎にあると想像もしなかった私は、浦佐駅で降りてショックを受けた。駅の周辺を見たが、どうしてもここで2年を過ごす自信がなかった。学校はもっと賑やかなところにあるんだろうと期待をしながら、国際大学のバスに乗り、学校に着いた私は、泣きそうになった。なぜビジネススクールが田んぼの真ん中にあるんだろう。浦佐駅のほうが賑やかなところではないか。たった2年間勉強しにきたとしても、これはちょっとひどくないかと一人でいろいろな文句を言いながら、荷物の整理を始めた。

学期が始まる前にバーベキューパーティーがあると聞いて、なんのバーベキューパーティーか知らず行くこと

にした。それがUMEXとの出会いであった。日本語が通じなくて、他の学生しかと話ができなかったが、なぜこの近所の人々はわれわれのためにこのバーベキューを開いてくれるのだろうと疑問と感謝の気持ちを持って帰ることになった。

新学期が始まり、学校の勉強には少しずつ慣れて行ったが、一番の問題は日本語だった。日本語授業があったが、学んだ日本語を練習したり、実際に使う機会がなかったのだ。ある日にUMEXの日本語プログラムのポスターをみかけて再びUMEXのドアをたたくことになった。私が必要な時にUMEXに顔を出すような気持ちで、ちょっと悪いなと思ったが、UMEXの方はそういう私をいつも笑顔で迎えてくれた。UMEXの日本語プログラムを通じて私は日本語に興味を持つことができた。日本語のみならず、日本の文化なども学ぶことができた。何より学校近所や祭りなどにも私達を連れて行ってってくれた。日本語が少しずつ分かるようになって今までは違う留学生活が始まった。毎日が楽しく、近所の人との交流を通じてたくさん友達もできた。

ある日積極的にUMEXに参加していたカーソン(香港)からUMEXのメンバーを紹介してもらった。これが小幡さんと真弓さんとの出会いだった。一緒に料理を作って食べながら、すぐ仲がよくなってきた。お二人とも私を通じて韓国について興味を持ち始めた。私は、新潟の人が外国人に対して社交的でオープンマインドを持っていると想像もしなかった。お二人の家に遊びに行き一緒にご飯を食べたり、話したり、いつも楽しい時間を過ごした。まるで、小幡さんは新潟でのお母さんで真弓さんは新潟での彼女のような存在だった。UMEXがなかったら、このお二人との出会いはできなかったはずだ。それに、出会っていなかったら、雪国がこんなに好きにならなかったはずだ。嫌だった雪国がUMEXのおかげで、別れたくない場所になっていたのだ。何も知らずに不安だった私だったが、日本、いや雪国がこんなに好きになると思わなかった。

私は今でも日本の故郷は雪国である魚沼だと周りの日本人に言っている。現在三重に住んでいるが、年一回のペースで新潟を訪ねている。いつも思っているが、私が韓国に帰る気持ちと新潟を訪ねる気持ちはほぼ同じとなっている。私はいつも「定年後には雪国に戻る」と回りの人に言っている。これは雪国のきれいな景色より、私が感じた雪国だけの暖かさに基づいた判断に間違いはない。私はいつもUMEXに対して、恩を受けたのを忘れたことがない。現在、私は三重にいます。UMEXの誰でも三重に来られる方がいられましたら、是非ご連絡ください。

Saint-Gobain Vetrotex  
Financial Controller 徐 佑碩 (Suh Wooseok)



ウーソックさん（左から1番目）と  
会員の高津戸さん（手前）

第50号 3月号

## 修了生からのメッセージ

### My Memory of UMEX and Chinese Cultural Lecture - Lin Jianxin

It has been more than one and half years since I left the beautiful IUJ campus. Many things that happened on campus have become blurred in my memory. Yet UMEX's Chinese Cultural Lecture that was held on December 5 of 2004 still stands so close to me that I almost could touch it.

The initial preparation of the Chinese Cultural Lecture began one day in June 2004, when Takeda-san, the UMEX coordinator, came to me and discussed this idea with me. It surprised me that UMEX would start preparing for an activity almost half a year in advance! I could feel how much importance they attached to this event and I welcomed her idea without any hesitation.

Although China and Japan are geographically close to each other, people of the two countries lack mutual understanding due to a short sad history and lack of exchanges. Chinese students in Japan have the responsibility to contribute their shares to change this situation. And UMEX's idea offered a perfect opportunity. Having this in mind, I discussed with other Chinese students. To my great joy, they all agreed to do their part! November 7 was set for this special event.

Our enthusiasm on the Chinese Cultural Lecture was even stronger than that on the Open Day, the biggest event in IUJ, which was also scheduled in November. After a few discussions, we got into the swing of our preparation, including a brief overview of the history of Sino-Japanese relations, China's modernization efforts, the Beijing 2008 Olympics, Chinese traditional musical instruments, Chinese national music and dance, presentation of Chinese martial arts and Chinese food, and lessons of basic Chinese conversations. Unfortunately, a strong earthquake visited IUJ on October 26 when everything had been going smoothly. Despite no casualties on campus, almost all IUJ activities stopped. UMEX did not cancel the Chinese workshop as I had expected, but put it off until December 5.

After the earthquake subsided, UMEX members began busy in making posters, sending out invitations, looking for the venue, projectors, acoustics, translators, dishware, and so on. They seemed even more enthusiastic than the Chinese students.

The event became quite a hit. On December 14, UMEX Newsletter (the 28th issue) published this news on its front page.

As far as I know, UMEX has organized a series of country introductions since its foundation. And each one of them has been a success. Besides UMEX members' marvelous efforts, there are other factors which also led to the success of those events. First, most people today are still separated by national borders and do not really understand each other due to various factors including political conflicts and the problem of information asymmetry, even though people have become much "closer" than a century ago. Therefore, there are strong needs for cultural exchange activities. Second, IUJ is uniquely positioned in offering a rich resource of country information and diversified cultural experiences, since it has students and professors from more than 50 countries. Third, UMEX provides a wonderful platform for IUJ students and the local Japanese people to exchange information and ideas freely. Last but not the least, peace, friendship and harmony are and will always be cherished by people from all countries alike. Cultural exchange is the most effective way to express their wishes and spread their ideas.

Two years of study in IUJ has become one of the memorable periods in my life. The 10-foot-high snow, elegant cherry blossoms, quiet library, friendly local people, erudite professors, candid friends, and more, often come to my mind and mouth with emotion. UMEX is one of the frequenters.

Lin Jianxin (IDP 2005), from Beijing



リンさん（中央）  
高橋さん夫妻と一緒に



修了生のリンさんとの思い出  
2004年12月に開催した中国講座の様様

### 修了生からメッセージ (第2部をご覧ください)



パウラさん（右から2番目）のスペインでの結婚式の模様、彼女の左隣が夫、右隣が多言語部会（日本語）を運営している関矢秋子さん、一番左が関矢さんの夫の遼一さん



アントンさん（右手前）  
夢っくすの英会話教室で  
講師していた時の様子

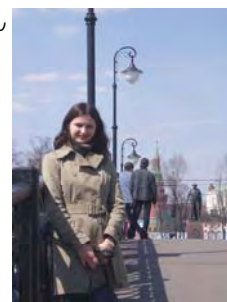


タンさん  
（アメリカにて）



ナンシーさん  
（ピースしている女性）  
十日町雪祭りにて

ユリアさん  
（モスクワにて）



メッセージはホームページに掲載されていますので、是非ご覧ください。

[www.umex.ne.jp](http://www.umex.ne.jp)

日	月	火	水	木	金	土
25 塩沢商店街散策	26	27 夢っくすサロン	28	29	30 夢っくすサロン	31
4/1	2	3 夢っくすサロン	4	5	6 夢っくすサロン	7
8	9	10 夢っくすサロン	11 英会話教室 午前・夜	12 英会話教室 午前・夜	13 夢っくすサロン	14
15	16 中国語会話教室 夜	17 夢っくすサロン	18 英会話教室 午前・夜	19 英会話教室 午前・夜	20 母国紹介 (南アフリカ)	21
22 春のバスツアー	23 中国語会話教室 夜	24 夢っくすサロン	25 英会話教室 午前・夜	26 英会話教室 午前・夜	27 夢っくすサロン	28

## ★★会員紹介コーナー★★

### 会員No. 328 横田雅俊さん

- ① ハワイのノースショアで2ヶ月くらいサーフィンしていた。それとイラク。
- ② ラテン語、日本語。それと言語ではありませんが、法律用語にも強い関心があります。
- ③ 背泳ぎ、サウナ、クラシック音楽（器楽曲のみロマン派迄）
- ④ 現在やっている日本語チューターを、楽しみながら長く続けること。
- ⑤ (仕事で)新潟県に来てまだ2年目ですが(関東育ちです)、当地の人々の忍耐強さと優しさに甘えさせていただいております。若輩もの(既に30歳だが)ですが、よろしく願い致します。

- ①一番行きたい国②興味のある言語③趣味や特技
- ④夢っくすでやってみたいことは⑤今やっている国際交流⑥一言どうぞ!



### 新会員のご紹介

- No.330 上村裕之さん (南魚沼市)
- No.331 高村理恵さん (南魚沼市)
- No.332 富永理恵さん (魚沼市)
- No.333 境陽子さん (南魚沼市)

★よろしく申し上げます★

### 運営委員の募集について

夢っくすの運営をお手伝い頂ける方を募集しています。少しでもご関心のある方は是非、事務局までお問合せ下さい。

## From 事務局

●国際大学に来校される際には必ず会員証を掲げて、守衛の方から会員であることが一目で判るようお願い致します。

●現在会員更新を受け付けています。今年も継続をお願い致します。

<入会費振込み郵便局口座>

会費：3,000円(個人会員)

家族会員：1,500円

口座番号：00550-7-74672

口座名称：うおぬま国際交流協会

UMEX うおぬま国際交流協会  
UONUMA Association for  
Multicultural EXchange



〒949-7277

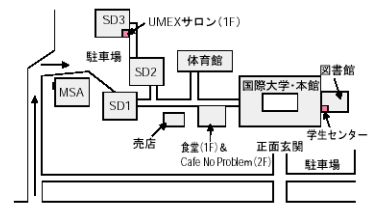
新潟県南魚沼市国際町777番地

国際大学内 UMEX事務局国際交流サロン

TEL/FAX: 025-779-1520

E-Mail: office@umex.ne.jp

URL: http://www.umex.ne.jp/



### 担当者連絡先

サロン 高橋:025-773-3123 イベント 久保田:080-6564-6833

多言語支援/外国語 柳瀬:025-792-0888 日本語 関矢:090-7803-7983

研修 井口:090-5329-8234 事業 武田:090-3648-4862

広報 森山:090-6945-9402 事務局 025-779-1520

### 【編集後記】

今月は記念号ということでいつもより大変でしたが、今までの5年間を一つ一つ振り返りながら編集しました。皆さんはどんなことが思い出されますか？夢っくすもようやく今年の5月で6年目を迎えます。これからも活動を通して留学生と楽しい思い出を作ってください。(toshi)





UMEX 夢っくす ニュース

# かわらばん

記念号  
3月号

## 第2部 修了生からのメッセージ

### Unleashed Memories - UMEX and Uonuma

This article is dedicated to those who have shared and dedicated their time in that special place we all once called "Home" at Uonuma. I spent two wonderful years in IUJ. Despite the heavy snow and harsh weather, I had found a lot of warmth in the smiles of UMEX members. We spent time enjoying simpler things in life—the breath taking nature of the place, the river and above all the invaluable friendships.

Through UMEX we were exposed to the core of the local culture. UMEX offered for us a wide range of activities varying from language classes to rice planting trips! On a very personal note, I would like to gratefully acknowledge the help of UMEX members and their friends for their support and enthusiasm for my thesis project without which it would have been factually impossible to complete my work. I would especially pick out for mention: Satoko Takeda, Etsuko Ohira, Yuko Iizuka and Keiko Sumiyasu to whom I am heavily indebted.

Currently, I work for Save the Children in Cairo an educational project linking schools, NGOs and the corporate sector. Corporate volunteers teach public school students life skills, fundamentals of economics to make them either better employees or entrepreneurs in the future. I benefited tremendously from my research in Japan and direct exposure to the educational system in my current work.

At the end, I would like to send a big hug to everyone in UMEX and thank them for the great job they are doing. I know in my heart someday I will be back to my second home and till then let's stay virtually in touch thanks to modern technology!

Nancy ナンシー (エジプト・2005年卒)

### Few words of gratefulness to UMEX

Greetings my dear UMEX friends,

I am very glad to hear of UMEX and to feel as keep on being the part of the organization. When I received letter from Takeda-san to write a few words of UMEX I got very surprised, glad and excited at the same time. And again my heart filled with the gratefulness.

Only after leaving IUJ I realized importance and helpfulness of UMEX activity. Whenever they were busy with work or home affairs local Japanese people were always willing to socialize with IUJ students. As IUJ students between reports, presentations and final works always find time to participate in UMEX activity.

UMEX is a good opportunity to explore Japanese language, cul-

ture and life. Despite on the classes of Japanese language, which most of the students find hard to attend, communication within the UMEX let to know at least conversational Japanese. This made for us our trips to JUSCO and supermarket easier. Classes of Ikebana and origami allowed get in touch with traditional art. Spring and autumn trips to different parts of Japan made for us possible to see nature and culture of the country, which is so different from ours. Through UMEX so many of us got friends and acquainted among local Japanese people.

My activity with UMEX started from the unforgettable trip to Hakkai-san mountain. It was autumn and mountain covered by the colorful forests left an amazement picture in my memory. And this is a special thanks to organizers and participants of the trip. My acquaintance with traditional Japan was started from the visiting Sakai-san's place. It was for the first time when I saw old traditional type of Japanese house, with garden and pond. My next home stay with Takahashi-san's family was very interesting and cognitive due to the visits to the museums and sight-seeing. Then at the UMEX classes I got to know the process of making Ikebana and few figures of origami. Trips to Aizu-Wakamatsu, Nagaoka firework festival, barbecue parties made my busy and stressful life in IUJ relaxing and more interesting. Due to UMEX I gained good friends: Tanaka-san and Aumi-san. With them I spend lots of pleasant minutes, among which the most unforgettable our trip to Sado island.

I am so willing to say words of gratitude to each and all of UMEX members. Your help is so necessary. You not only help to speak Japanese, organize trips and barbecue; you help to know another Japan, which is different from Tokyo with its skyscrapers, subway and rushing life. Knowledge that I gained, this is not only knowledge of Japanese language, but knowledge of history, tradition, Japanese culture helps me a lot at my present life. Now when I am writing these letters and outside the window it is snowing and temperature is below zero the warm memories of UMEX help me to overdo long Russian winter.

Yulia コリアさん (ロシア・2005年卒)

メッセージはホームページに掲載されていますので、是非ご覧下さい。

[www.umex.ne.jp](http://www.umex.ne.jp)

## 修了生からのメッセージ

### My Message to UMEM and a Personal Update

#### Dear UMEM members:

Even though I graduated IUJ in 2005 I still remember UMEM to be the most delightful part of my IUJ life which helped me to manage the strain of my studies. So I take this chance to thank UMEM once again for its existence and the cultural opportunities that it provides to IUJ student and Japanese community around campus. If it was not for UMEM, my understanding of Japan would have been much more limited and I would have missed so much fun.

In this regard, I advise IUJ students to engage actively in activities provided by UMEM because they can easily one of the most exciting experiences of your stay in Japan. It was like that in my case. My most memorable even in Japan was my trip to Aizu-Wakamatsu, organized through UMEM and guided by Takeda-san. It was interesting, fun, and above all it gave me a chance to make new friends.

At this point, I work as Chief Economist in ACDI/VOCA-Kyrgyzstan. Our company works in the development field helping poor people with microcredit and microloans, which they can use in order to sustain their small businesses and then further develop them. This job is very interesting and rewarding. The most important thing is that I can use the knowledge and skills I received from IUJ in my work on a regular basis. Our company often sends its employees abroad for conferences and trainings. When timing is right I hope to be able to come to Japan on a business trip and then in this case I will try my best to visit IUJ and hopefully participate in one of UMEM activities.

As to my personal situation, I am still not married, but I think I am on my way to it. I met a wonderful girl who is my colleague at ACDI/VOCA and we are together now. This year she is applying to IUJ and I keep my fingers crossed for her. She is a great person: very smart, kind and understanding. Her name is Viktoriya An and she is Korean ethnically but Uzbek by citizenship. With a bit of luck, you will be able to see her this year. I am sure you will find communicating with her pleasurable and delightful. Of course, I told her that one of the first things she should do in IUJ is to get in touch with local people through UMEM and communicate actively with them as it is one of the most rewarding experiences one can get while in Japan.

In closing, I want to pass huge hello and warm regards to all UMEM members and especially the ones who I interacted with as an English language teacher and just as a friend. I still remember the fun classes that we had and great parties we had after those classes. In my free time I teach English to local people as well but UMEM class still stays my favorite. As you can see from this update there are chances for us to meet again. Until then good bye, take care and do your best!

**Anton Kim アントン**

(ウズベキスタン・2005年卒)

### My memory of UMEM and my latest report

It has been 4 years since my graduation from IUJ in 2003. I have got used to the work and life in Tokyo. But sometimes on Friday night, I came across a thought how UMEM is doing in its Friday meeting. This brings back my memory 4 years ago. I am the lucky one seeing the establishment of UMEM in campus. I did not recognize it until I found the consultation room in SD3 was occasionally open and some students were there practicing Japanese with some local people. I was invited to join the conversation and met many conversation partners there. One of my conversation partners was Sato Yaeko-san (佐藤八重子さん). Our conversation varied from topics in campus, foods, interesting Japanese customs, business conversation practice and sometimes even Japanese trouble-shooting like how to describe a hair-cut to barber's shop. My favorite practice was reading the conversation column from the Japanese Journal. It was a good practice for Japanese pronunciation. Reading from the text sometimes could be boring. But Sato-san was always very patient and paying good attention. Sometimes, we repeated a single sentence or even a word for many times. She was always listening patiently and speaking with a smile. Her smile and patience was the best help for me to overcome the language barrier. Apart from Japanese conversation, I also met UMEM people from sightseeing tours, UMEM parties and all kind of activities, in which I met Mayumisan (真弓さん), Oabata-san (小幡さん), Etsuko-san (悦子さん) and more. Although every student is staying on campus for 2 years, the memory with UMEM can definitely carry beyond, which they can bring home and still remember it today.

After my graduation, I moved to Tokyo working for a Japanese company. I am unable to attend any UMEM meetings but I am glad to read UMEM's news from Kawaraban. In the time Kawaraban releases its 50th issue this March, my career also begins a new path. I changed to work for an American company and have just spent two months in its US office. During my stay in US, I tried to meet and talk to more people, attend my US colleagues' parties almost every week, just like what I did in UMEM- trying to have more international communications and mutual understanding. I have now backed to Tokyo, and I really look forward to seeing the 50th issue of Kawaraban very soon. I believe there will be always new things to learn and experience to share in UMEM, just like what I feel about my new job. When we enjoy reading the 50th issue of Kawaraban, I would like to thank many people working very hard behind. They keep us stay in touch through Kawaraban, and we can grow together in UMEM.

**Richard Tang タン (香港・2002年卒)**

## 修了生からのメッセージ

### One of the best experiences in my life...

Everything started when I had to decide first, if I wanted to participate in an exchange program and, second, where... I had always loved Japanese culture, Japanese food and Japanese people but... It was on the other side of the world! At the end I did, I decided! And... there I was, flying to Japan!

I landed in Tokyo airport on a Friday morning, in March 2004. I was completely jet lagged and I could only see kanji's that I could not read, even though I had been studying Japanese for the last two years. I had to take a train to Tokyo main station and then change there for the shinkansen to Urasa. Once I got to Tokyo main station and I could not even figure out how to buy the train ticket, I thought: "Paula, you are crazy! Why did you decide to go on exchange to Japan?" But these thoughts disappeared when a group of teenager girls dressed in a school uniform came to me and asked in English with a very cute Japanese accent: "Can we help you?" Of course my answer was "Yeeesss! Pleaaase!" I tried to explain in the little Japanese I knew where I wanted to go, until I realized that they wanted to practise English with me, so we switched to English. They helped me buy the ticket, brought me to the right track, waited until my train came and showed me where my sit in the train was. Meanwhile, of course, they were asking me where I was from and all kind of questions about Barcelona and Spain. They were so nice! They saved me from getting lost with an incredible jet lag! After that I thought: "Paula, you made the right choice, Japanese people are incredibly nice!" And there I was, in the shinkansen going to Urasa!

My first contact with people in the university was with UMEX people, they invited me to their meetings and activities. "Nice people!" I thought. There I met my Japanese tutor, Akiko Sekiya, who helped me with my Japanese homework. It was so tough for me to learn Japanese! I will always remember one afternoon, when I was trying to finish my Japanese homework with her help and she told me "Paula, why don't we go out for a coffee, maybe this helps". That was a fun afternoon, having coffee in town with Akiko san. I will also always remember when we cooked Spanish omelette together and when the day before leaving IUJ she told me: "Paula, let me know when you are going to get married, because I want to come to your wedding with my husband!" I got married last May and, of course, I sent her an invitation. And there she was, in my wedding having fun! That was really nice!

For me, the exchange to IUJ was one of the best experiences in my life. It is such an international university! Apart from the school subjects, I learned a lot about the world and about myself! I learned that if people act in a way I don't understand it is probably because I do not know enough about the country they are from and their culture and religion. I learned that friendship has no borders. I learned that if people have travelled or lived abroad and are open-minded, life is lots easier and nicer!

I had so much fun in our "party nights" in IUJ: so many interna-

tional dinners, the paella party, the night we went out to the karaoke, the Asean night, the Japanese night, my leaving party night...

I will never forget the day I had to leave IUJ, it was such a sad day! Everybody was giving me presents from their countries (that I still keep in a special shelf in my apartment in London). Everybody was wishing me the best and saying goodbye and some even came to the station to say the last bye-bye... I was crying all the way to Tokyo in the shinkansen, I was sad that such a nice experience was over! But all good things in life have an end because other nice things will be coming soon!

I keep a lot of good memories of those three months I spent in Japan. And I still keep in touch with some IUJ students and UMEX people. I also met a couple of them in Spain, Dubai, London... Let me know if any of you have plans to travel to London or Barcelona, or Europe in general, who knows, maybe we can meet for a coffee!

### Paula Teixidor パウラ (スペイン・2004年交換留学生)

### My memory of UMEX

Looking back to the experiences of studying and living at IUJ, one may say "it is unique". Stepping into IUJ campus at the first time, we can feel the natural beauty living around us and more than that people came to talk with us with friendly face and helped us in many ways in terms of adjusting ourselves to the new environment of living. UMEX members are one of those people who tirelessly assist us in understanding Japanese culture and language. Moreover, UMEX is a place of building friendship through strengthening mutual understanding between international students and local people and a training ground for many people to learn the culture of sharing with the people in needs all around the world particularly the victims of the Tsunami in Southeast and South Asia, and those vulnerable in the armed conflict in the African continent. I personally appreciate the efforts of UMEX members.

I would like to take this opportunity to express my sincere gratitude to Mrs Takeda San, one of the founders of UMEX, for her support and encouragement given to me when I was totally lost confidence in my study and life. I also would like to thank Mrs Naomi, UMEX member, for her Japanese instruction. Thank you all members of UMEX for arranging various trips to tourist spots in Niigata prefecture. I really enjoyed and learned a lot from the trips. Last but not least, I wish all UMEX members good health and successes in your activities. May UMEX continue to grow! Long Life UMEX!

### Vannarith バナリス (カンボジア・2006年卒)

## 修了生の家族からのメッセージ

Hi, I am Sofy. I was a UMEX member for the period of 2002-2003. My husband Bimo was a student of IUJ majoring in international development program (class of 2001). Now we live in Jakarta-Indonesia. I have 3 little sons named Daffa, Ivan, and Ariq. Daffa and Ivan are students of a Catholic school, while Ariq is still in a playgroup. Besides my activity as a housewife, I'm pursuing my master degree in business majoring in strategic management at University of Gajah Mada. My husband is an employee of Indonesia's central bank. During my living in Japan, I had a lot of unforgettable memories, especially as a UMEX member. Sensei taught me many things from Nihon go, Japanese cultures, how to wear a kimono, and many other valuable things. Following, I wrote an article about Bali which is gathered from various sources. I hope some of you will visit Indonesia in the near future.

### "BALI: DAY OF SILENCE"

Bali is a small island in Indonesia which is famous of its unique culture and beautiful view. Balinese do all their activity based on Hindu way. As every religion or culture all over the world has their own way to define and celebrate their new year, so does Hindu way. If many people over the world open the new year on January the 1st in revelry, in contrast, the Balinese open their new year in silence. This is called Nyepi Day, the Balinese of silence, which is falls on the day following the dark moon of the spring equinox, and opens a new year of the Saka Hindu era which began in 78 A.D. This year falls on March the 19th, and it is a day of silence, fasting, and meditation.

The activity of Nyepi day is as follows:

First, The Melasti Ritual, is performed at the 3-4 days before nyepi and dedicated to God. It is performed at the beach to respect God as the owner of the land and sea. The ceremony is aimed to clean all nature and its content.



beaches purification

Second. The Bhuta Yajna ritual, is performed one day before nyepi in order to vanquish the negative elements and create balance with God, mankind, and nature. Balinese usually make Ogoh-ogoh (the fantastic monsters or evil spirits or the Butha Kala made of bamboo) for carnival purposes. The Ogoh-ogoh monsters symbolize the evil spirits surrounding our environment which have to be got rid of from our lives. The carnivals themselves are held all over Bali following sunset.



ogoh-ogoh

Third, The Nyepi Rituals, is performed with the following conditions : Amati Geni / no fire or light; Amati Karya / no working; Amati Lelunganan / no traveling; Amati Lelunguan / fasting. On Nyepi day itself, every street is quiet - there are nobody doing their normal daily activities. There is usually Pecalang (traditional Balinese security man) who controls and checks for street security. Pecalang wear a black uniform and a Udeng or Destar (a Balinese traditional "hat" that is usually used in ceremony). The Pecalang's main task is not only to control the security of the street but also to stop any activities that disturb Nyepi. No traffic is allowed, not only cars but also people, who have to stay in their own houses. Light is kept to a minimum or not at all, the radio or TV is turned down and, of course, no one works. Even love making, this ultimate activity of all leisure times, is not supposed to take place, nor even attempted.

Fourth, The Ngebak Agni/Labuh Brata Ritual, is performed one day after nyepi for all Hindu's to forgive each other and to welcome the new days to come, and doing the Dharma Canthi. Dharma Canthi are activities of reading Sloka, Kekidung, Kekawin, etc.(ancient scripts containing songs and lyrics). For Balinese, who have many kinds of celebration sacred days, Nyepi is meant to be a day of self introspection and prohibitions on outdoor activities are implemented seriously, particularly in villages outside of Bali's southern tourist area. Villages wardens (pecalang in Balinese) will patrol to keep people of the streets and beaches. So, this particular ceremony would be an interesting experience for foreigners in spending their holiday indoor. Indeed Nyepi day has made Bali a unique and unforgettable island. Come and visit Bali.



paddy field



sunrise at Sanur beach

Sofy ソフィー (旦那さんが 2003年卒)